

2021年5月14日第71回運輸政策セミナー
公共交通における自動運転 - 社会実装のための課題と期待
奥田専務理事 閉会挨拶

ご紹介頂きました専務理事の奥田です。

本日は、500名を越える大変多くの皆様にご視聴をいただきまして、誠にありがとうございました。また佐藤弁護士、小木津先生、鎌田先生、貴重なお話を賜りましてありがとうございました。

また、ご視聴いただいております皆様からのご質問も、論点を的確についたものであり、有意義な議論ができたと思います。誠にありがとうございました。

冒頭の会長挨拶で、佐藤弁護士の国土交通省でのご活躍ぶりを紹介するようにとのことでしたので、それも含め、ご登壇の先生方について私からもご紹介させていただきます。

まず佐藤弁護士は、2017年から2019年まで、国土交通省自動車局に出向しておられました。私もちょうどその2年間局長をしておりましたので丸々2年一緒に仕事をした仲間でございます。

佐藤弁護士の本来の業務としては「自動運転における損害賠償責任に関する研究会」の議論のとりまとめでしたが、同時期に自動運転の法制化、自動車メーカーによる不適切完成検査問題などがありましたので、本来の業務以外にも様々なことにリーガルアドバイスをいただきました。誠に、ありがとうございました。

佐藤弁護士は国土交通省で得られた知見を様々な観点からまとめた著書、『自動運転・MaaS ビジネスの法務』も出版なさっておりますので、書店等で機会があれば、是非、手に取って見ていただきたいと存じます。自動車行政及び業界に大変通じている方でございますので今後ともご活躍を期待しております。

次に小木津先生ですが、先生がおられます群馬大学については先進的な実証実験を全国各地でやっていらっしゃるその分野のフロントランナーであるとして以前から承知しております。

自動車局で実証実験を 50 例ほど紹介する資料を作成していますが、その中でも群馬大学の事例が多く紹介されております。

今後の公共交通における自動運転の実用化を含めて、小木津先生には引き続きこの分野を牽引していただきたいと思います。

鎌田先生は自動運転に限らず、自動車の諸課題に関する重鎮でいらっしやいまして、私も局長当時 2 年間、みっちりご指導頂きました。

経済産業省製造産業局長・国土交通省自動車局長主催の「自動走行ビジネス検討会」、産学官・オールジャパンで取り組みを進めている世界的に見ても珍しい取組ですが、その座長をおつとめです。また先生にとりまとめいただいた「自動運転車の安全技術ガイドライン」については、自動車は国際商品でありますから、いろいろな技術基準について世界的に議論をして統一を図っていく、基準調和とっておりますが、そういった場に我々も世界に先駆けこのガイドラインを持ち出しまして、昨年であれば、高速道路上のレベル 3 の運転技術基準を策定するなど成果を上げております。日本とヨーロッパ勢が切磋琢磨して、基準調和を図っておりますので、引き続き鎌田先生のご指導をいただきながら、後進にも頑張ってもらいたいと思います。

鎌田先生は技術基準を含む制度整備や自動運転の実用化における第一人者でありますので、引き続きご指導をいただきたいと思います。

また改めてご視聴いただいている皆様に申し上げるまでもございませんが、自動運転の意義というのは大きく 5 つ言われております。

1 点目、交通事故の削減です。交通事故というのは、特に死亡事故は 96% が運転者のルール違反、また運転ミスが原因です。それらを大きく削減することが期待できます。

2 点目は、それにも関連しますが、高齢者の移動支援です。3 点目が本日のテーマに関連する、地方における交通確保やドライバー不足の解消、4 点目が渋滞の緩和、5 点目が自動運転技術のノウハウの国際展開による国際競争力の強化です。

これらの観点から期待が高まっている自動運転ですが、このうち、本日のテーマである「公共交通における自動運転」という点については、かつて鎌田先生から、「自動運転によって広がる超高齢化社会に対応したまちづくり」というテーマでお話を承った中で、各地域、特に自治体が抱える様々な課題について将来像をどう描き、課題解決のために自動運転技術や MaaS といった手段を

どう活用するかというビジョンをいかに設定するかが重要である、ということ
を伺いました。

今日は様々な自治体の皆様もご視聴いただいていると思いますので、本日の
セミナーがまちづくりという観点からも有意義なものになったのであれば幸
いです。

最後に1点お願いがございます。この後皆様にはアンケートを送信させてい
ただきます。本日のセミナーの内容、進行について、また当研究所について、
忌憚のないご意見をいただけますと幸いです。私ども、皆様から頂いたご意見
については、所内で共有をいたしまして、改善を図るべく努力してまいります。

改めまして本日はありがとうございました。